

平成 30年 12月 25日

(公社)埼玉県介護老人保健施設協会
 会長 小川郁男 様

施設名 老健 あさひヶ丘
 氏名 吉田 真由美

研修会報告書

研修会名	第2回多職種によるチームアプローチ研修				
日時	平成30年12月14日(金) 10:00 ~ 16:00				
会場	埼玉県県民活動センター 県活セミナーホール1				
講師	村田裕一(介護)・丹野実佐子(看護)・和多勝弘(管理栄養士) 木森 寛(作業療法士)・吉野まどか(支援相談員)				
参加人数	42名/100名定員				
研修委員 (氏名・施設名)	大宮ナーシングピア 渡辺 清光 ・ ケアセンター八潮 塚田 裕斗 なでしこ 市川 幸司 ・ かわぐちナーシングホーム 江村 泰亮 老健あさひヶ丘 吉田 真由美				
研修会のテーマ					
研修会の評価	アンケート回収枚数	42 枚	3. グループワーク	4.1 / 5	
	1. 研修内容と目的の一致	4.1 / 5	4. 研修会の進め方	4.1 / 5	
	2. 講義に対する評価	①	4 / 5	～総合評価点～	21 / 25
		②	4 / 5		
③		/ 5			
④		/ 5			
総 評	(研修会開催後の反省会での内容や研修委員としての感想等を記述)				
	・今回の多職種による「老健だからできる重度者の受け入れ」シンポジウムへは42名の参加者がありました。				
	・午前には介護、看護師、管理栄養士、作業療法士、支援相談員、多職種のリーダーにシンポジストとなっていただき職種ごとの重度者の見解や受け入れ後の対応など、それぞれが思うアプローチ方法等を発表していただきました。				
	・午後は同職種のグループワークから始まり職種ごとの重度者の考え方の話し合いと発表、その後、他職種にグループ分けし、自分の施設に見立てての重度者の受け入れ方のまとめと発表を行いました。				
	・反省としましては、多職種リーダーによる重度者の受け入れシンポジウムとテーマは壮大ですが、各施設への募集のタイミングが全国老健大会後で一息つき、多職種シンポジウムに参加しようとまで思わせることができなく、参加人数が増えなかった。再募集をかけるのも遅れてしまい後手後手になってしまった。				
	・内容に関しては他職種の考え方の違いなどがわかりやすく、それぞれが苦悩していることなど全体で共有できたのではないのでしょうか。ただ、多職種の中に医師が参加していないのは、本当の多職種アプローチとは言えないでしょう。老健施設全体が考えていくには今後の大きな課題ではないのでしょうか。				

*アンケート結果の詳細については、別紙添付資料「研修会アンケートのまとめ」を参照。